

2024 年度 卒業生アンケート結果及び課題について

学部卒業生を対象に、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づく知識・能力を、本学での経験を通じてどの程度獲得できたか把握し、本学の教育内容のさらなる質的向上・保証・改善に役立てることを目的とした、教育や研究、学生生活及びキャリア（就職・進学）に関するアンケートを実施した。

アンケート結果と分析（別紙）及び課題について報告する。

1. アンケート実施概要

対象者：本学学部卒業後 2・5・15・25 年目の卒業生
（本学大学院に在籍する学生及び本学教職員を含む）

実施方法：オンライン（Qualtrics）による実施

設問内容：別紙のとおり

回答期間：2024 年 7 月 16 日～9 月 30 日

回答者数：509 名

2. アンケート結果と分析

別紙のとおり 別紙 1：アンケート結果抜粋と分析

別紙 2：アンケート集計結果（全体）

別紙 3：アンケート集計結果（大学院（修士・博士）在学中を除く）
[266 人]

3. 課題について

「2. アンケート結果と分析」より、以下の課題が考えられる。

- ・卒業・修了後に英語で円滑にコミュニケーションがとれる能力の育成【別紙 1「2.」】
- ・異文化理解、国際的な視野の能力を高める取り組み【別紙 1「2.」】
- ・データサイエンス教育のさらなる充実【別紙 1「5.」】

以上

アンケート結果抜粋と分析

1. 回答者について【Q1～Q2】

- ・「2022 年度卒業者」が 61.5%となり半数以上を占めている。

2. 英語の使用、英語コミュニケーションレベル、異文化理解、国際的な視野について【Q3～Q7】

- ・「海外での留学や勤務、海外出張の経験はない」と答える割合は最も高く、78.0%。
- ・業務や学業における英語の使用について、全体の結果、大学院（修士・博士）在学中を除いた結果ともに「英語の資料や文献等を読む必要がある」の割合が最も多く、卒業・修了後も英語を使用する機会があることがわかる。
- ・英語のコミュニケーションレベルについて、在学中に身についたと感じるレベルは、昨年度は「A2」（27.3%）、「B1」（24.6%）の順であったが、今年度は「B1」（29.1%）、「A2」（25.5%）となり、レベルが上がっている。
- ・在学中に身につけておきたかっと感じるレベルは、「B2」（34.0%）、「C1」（22.6%）の順であった。このことより、実際に身についたレベルよりも高いレベルを身につけたかっと考えていることが窺える。
- ・身につけておきたかったコミュニケーションレベルについて、「人との交流」（35.6%）、「研究（在学中の方）」（34.6%）の場面で感じる割合が多かった。大学院（修士・博士）在学中を除いた結果では、「日本国内での仕事」（41.3%）、「人との交流」（33.7%）の場面で感じる割合が多く、「人との交流」に際してより高いコミュニケーションレベルを身につけておきたかっと感じていることが窺える。
- ・異文化理解、国際的な視野を持って活躍できる能力を身につけるために有効だと感じる取り組みについて、上位は「英語教育」（42.0%）、「留学」（37.5%）、「卒業研究」（32.8%）であった。このことから、英語を用いたコミュニケーションが有効と考えていることが窺える。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）について【Q8、Q9】

- ・卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において定める能力のうち、在学中に身についたと感じる能力は、昨年度と同様に「基礎的な知識・技術」（72.3%）、「専門的な知識・技術」（58.5%）、「論理的・批判的な思考力」（56.6%）の順となっている。
また、学部卒業後の生活において必要だと考える知識や能力は、「コミュニケーション能力」（73.9%）、「自ら課題を発見し、解決する能力」（72.1%）、「論理的・批判的な思考力」（64.0%）となっている。
- ・学部卒業後の生活において必要と考える「コミュニケーション能力」（73.9%）は、学部在学中に身についたと感じる能力の割合（29.1%）との差が大きくなっていることから、コミュニケーション能力を高める取り組みが必要と考えられる。

4. 卒業後に役立ったと感じること【Q10、Q11】

- ・卒業後に役立ったと感じることとして、「卒業研究」（63.9%）、「専門教育（講義・演習）」（58.9%）、「専門教育（実験・実習）」（49.7%）となっており、昨年度と同様に本学の専門教育が役立っていることが窺える。一方、一般教養科目（英語、英語を除く語学、教養教育）は昨年度と同様に低い割合となっている。
- ・卒業後の生活に役立ったと感じることがどのような場面で役立ったかについて、「仕事（就職後の研究含む）」（48.7%）、「人との交流」（45.6%）、「研究（在学中の方）」（43.0%）の順となった。

5. データサイエンスの知識の活用【Q12、Q13】

- ・進路決定（進学、就職等）の際に、データサイエンスの知識が活かされたかについて、「活用した」と答えた割合の合計は 48.7%と、半数に近い割合であった。その中で、「授業（研究活動含む）で得た知識を活用した」（32.6%）の割合が最も高かった。
- ・業務や学業におけるデータサイエンスの知識を活用する機会等について、「活用している」と答えた割合の合計は 51.9%であった。また、「在学中にデータサイエンスを学んでおけばよかった」、「本学で卒業生を対象としたデータサイエンスを学ぶ講座があれば受講したい」を選択した割合の合計は 47.0%となり、データサイエンスの知識が必要と感じていることが窺える。この割合は、大学院（修士・博士）在学中を除いた結果では 63.7%とより高い割合となっており、近年社会におけるデータサイエンスの必要性が高まっていることが窺える。

6. 今後本学が力を入れるべきと考えること【Q14】

- ・今後本学は何に力を入れるべきかについて、優先順位 1 位では「研究力の向上」（27.7%）「学部教育の充実」（18.9%）、「英語教育の充実」（9.6%）の順となった。優先順位 2 位、3 位でも、上位は「研究力の向上」「学部教育の充実」のため、主にこの 2 点について有効な取り組みの検討が必要と考えられる。

	優先順位 第1位	優先順位 第2位	優先順位 第3位
各優先順位の中での 1位	研究力の向上 27.7%	学部教育の充実 17.5%	学部教育の充実 13.8%
各優先順位の中での 2位	学部教育の充実 18.9%	研究力の向上 14.9%	研究力の向上 13.2%
各優先順位の中での 3位	英語教育の充実 9.6%	大学院教育の充実 13.4%	英語教育の充実 13.0%

7. 現在の勤務先での職種【Q15】

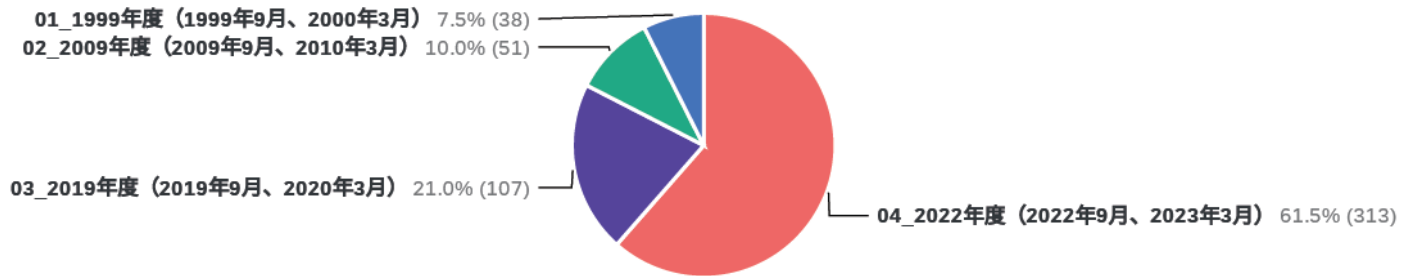
- ・「学生」が 47.7%と最も割合が高く、「ソフトウェア関連」（10.8%）、「開発関連（技術開発、生産・製造技術開発）」（6.7%）と続いている。

以上

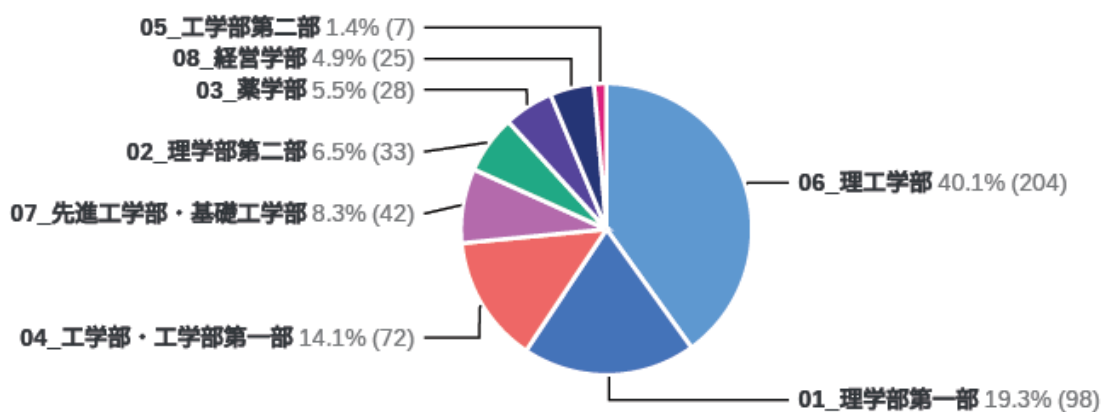
アンケート集計結果

(別紙 2)

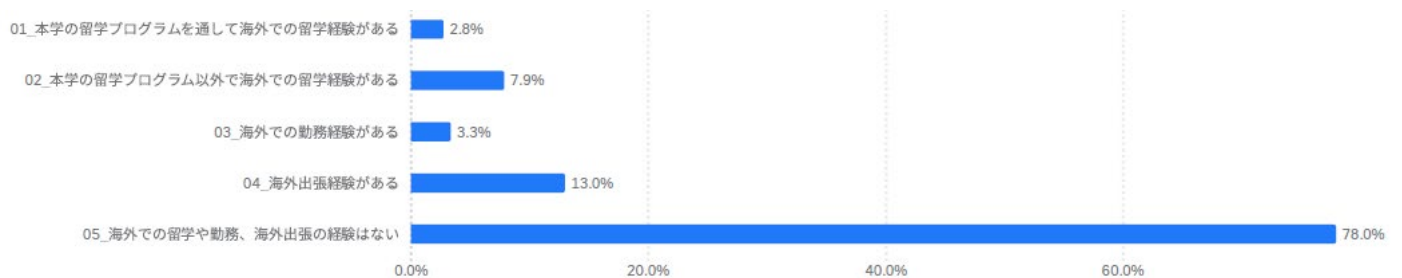
Q1 卒業した年度を選んでください。



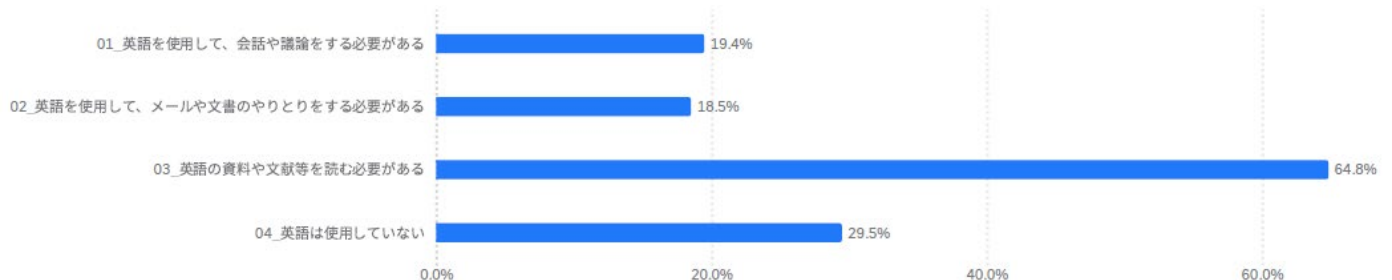
Q2 卒業した学部を選んでください。



Q3 海外での留学や勤務の経験、海外出張について、あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



Q4 業務や学業における英語の使用について、あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



Q5 英語のコミュニケーションについて、「01_学部在学中に身についたと感じるコミュニケーションレベル」及び「02_現在身につけておきたかったと感じるコミュニケーションレベル」を下表からそれぞれ選んでください。

※各選択肢の具体的な到達レベルは下表をご覧ください。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）

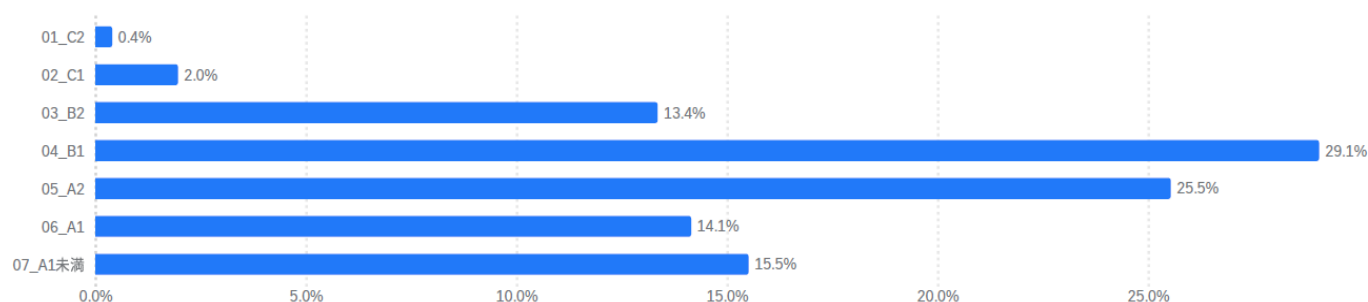
CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200 (210) (230) C2 Proficiency			9.0 8.5				
C1	199 180 (190) (180) C1 Advanced	3299 2600 (3299) (2630) 1級	1400 1350 (1400)	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160 (170) (160) C1 First / for Schools	2599 2300 (2599) (2304) 準1級	1349 1190 (1280)	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140 (150) (140) B2 Preliminary / for Schools	2299 1950 (2299) (1980) 2級	1189 960 (1080)	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120 (130) (120) B1 Preliminary / for Schools	1949 1700 (1949) (1728) 準2級	959 690 (840)		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100 (110) (100) A2 Key / for Schools	1699 1400 (1699) (1456) 3級	689 270 (270) Core					620 320

▶ は各級合格スコア

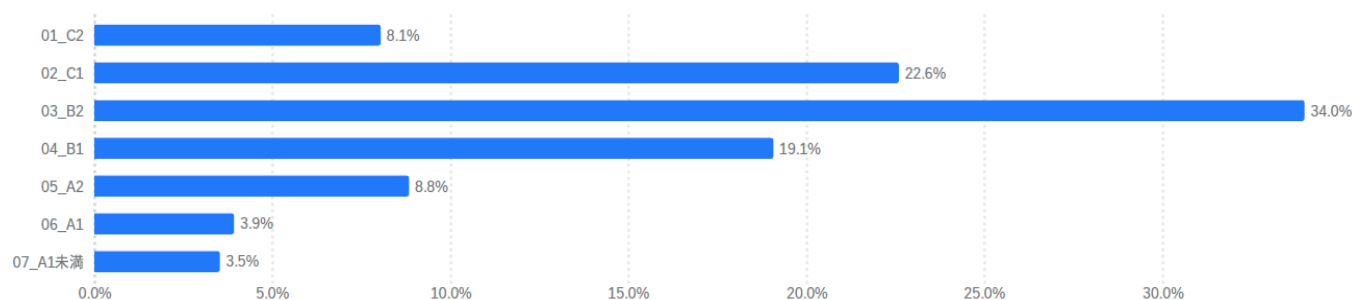
※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対象関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。

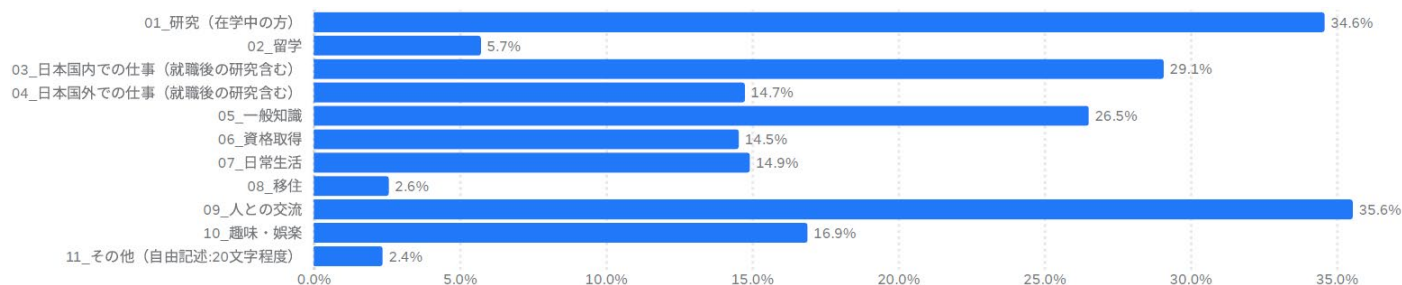
Q5-1_大学在学中に身についたと感じる英語のコミュニケーションレベル



Q5-2_現在身につけておきたかったと感じる英語のコミュニケーションレベル



Q6 Q5 で選択した「現在身につけておきたかったと感じるコミュニケーションレベル」について、どの場面でそのレベルを身につけておきたかったと感じましたか。（複数選択可）



Q6_15_TEXT - 11_その他（自由記述:20文字程度）

※抜粋

11_その他（自由記述:20文字程度） - テキスト

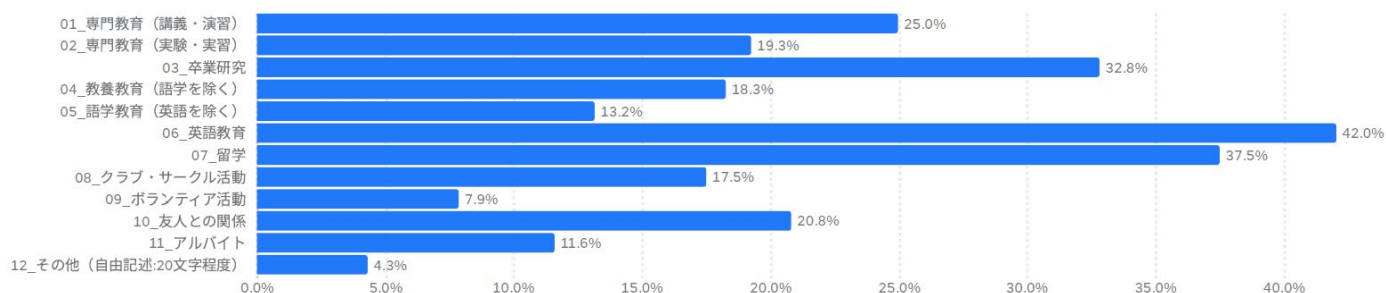
海外への挑戦のため

就職活動

外資系企業勤務中で、リスキングのため理学部二部で学んだ。すでに英語は日常、ビジネス上問題ないレベルです。

就職活動

Q7 学部在学中の学びや経験で、異文化理解、国際的な視野を持って活躍できる能力を身につけるために有効だと感じる取り組みをすべて選んでください。（複数回答可）



Q7_11_TEXT - 12_その他（自由記述:20文字程度）

※抜粋

12_その他（自由記述:20文字程度） - テキスト

特になし

日本自身のことをもっと学ぶべき。

国際コミュニケーションをする機会がなかった。

キャンパス内で習える英会話

研究室活動

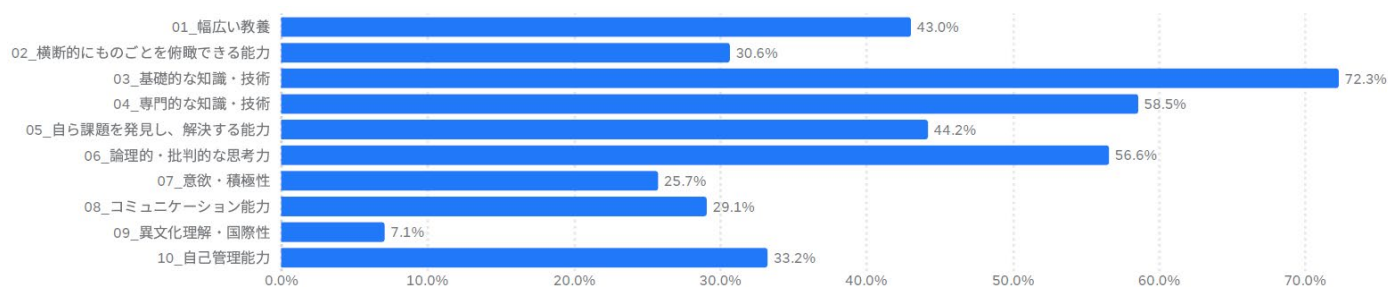
とにかく英語で話す機会

海外における日本の位置付け全般

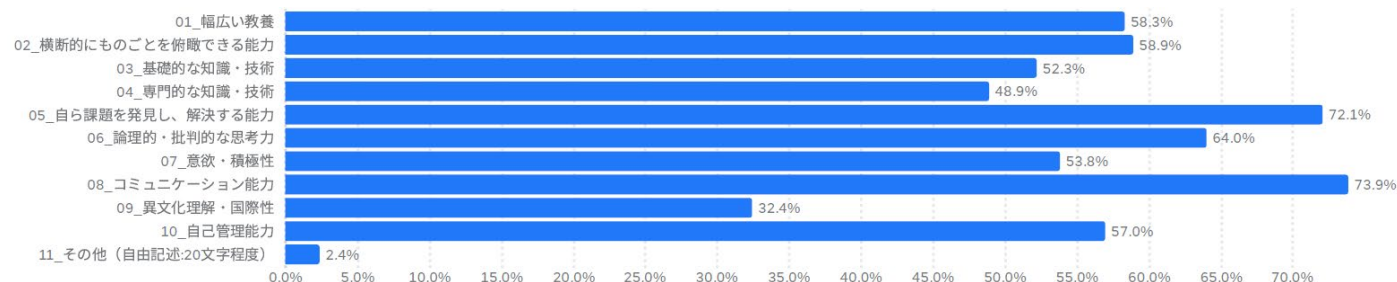
毎日の英会話

日常的に英語を話す環境（研究室に留学生がいる等）

Q8 本学は卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において、身につけるべき知識・能力等を
 制定しています。以下のうちから、学部在学中に身についたと感じる能力をすべて選んでください。
 （複数回答可）



Q9 学部卒業後の生活において必要だと考える知識や能力をすべて選んでください。（複数回答可）



Q9_17_TEXT - 11_その他（自由記述:20文字程度）

11_その他（自由記述:20文字程度） - テキスト

大きな声であいさつできること。

いろいろな立場の人と関わること。

言語化力

なし

就活で成功する能力

兎に角高いモチベーションが必要

アート思考、ナラティブ

チームビルディング能力

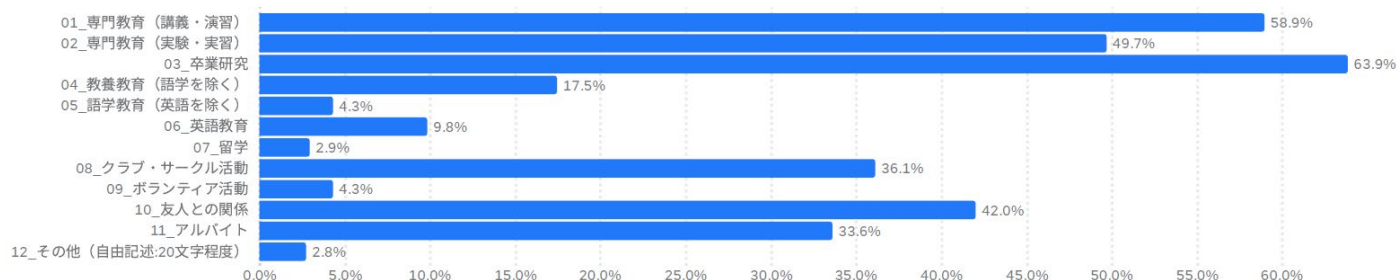
あらゆる能力

日本文化に関する教養！道徳！国家感！

あらゆる知識・技能

Q10 学部在学中の学びや経験で、学部卒業後の生活に役立ったと感じることをすべて選んでください。

(複数回答可)



Q10_11_TEXT - 12_その他(自由記述:20文字程度)

※抜粋

12_その他(自由記述:20文字程度) - テキスト

東京オリパラボランティア

関東地区で生活すること。

指導教官が業界大手企業との共同研究を多数しており、そこから得たものが即戦力となった。

キャンパス内で習える英会話

何も役に立たなかった。

大学での学びは何も役に立っていない

教職課程

わからない

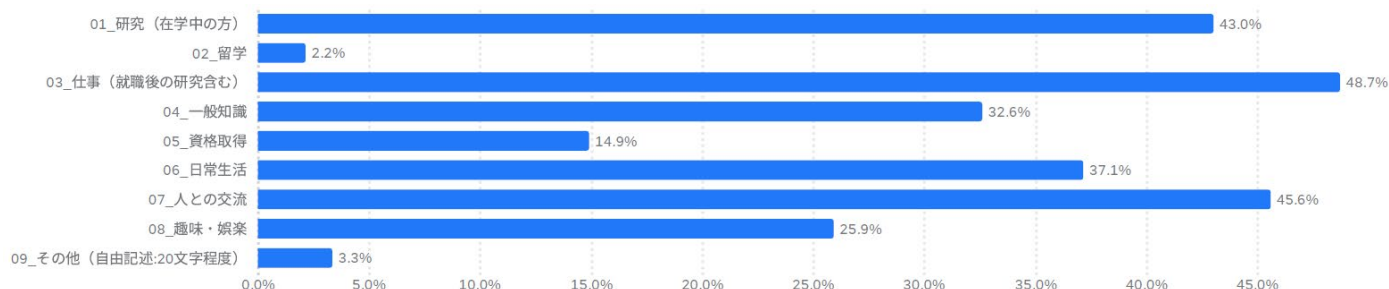
行動力

なし

インターンシップ!

教職教育

Q11 Q10 で選択した「卒業後の生活に役立ったと感じること」について、どのような場面で役立ちましたか。(複数選択可)



Q11_15_TEXT - 09_その他(自由記述:20文字程度)

※抜粋

09_その他(自由記述:20文字程度) - テキスト

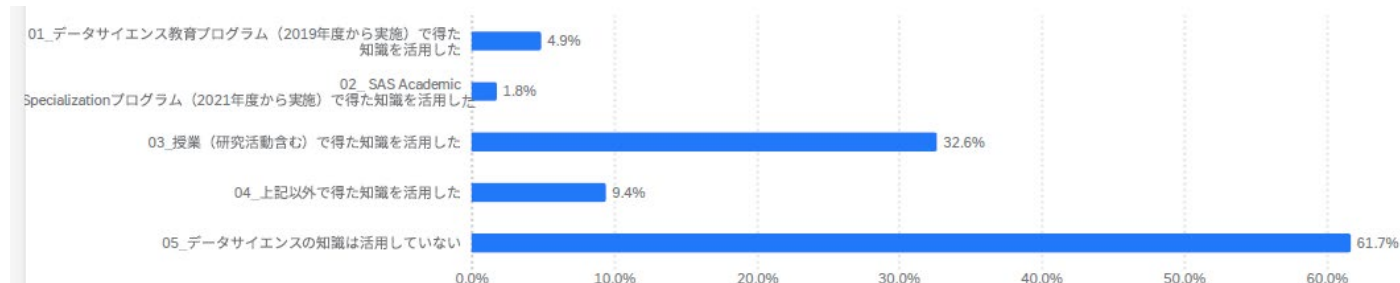
社外専門家委員との人脈形成や業界の技術的フロンティアへの参画

仕事では、文系の人との関わりが圧倒的に多い。

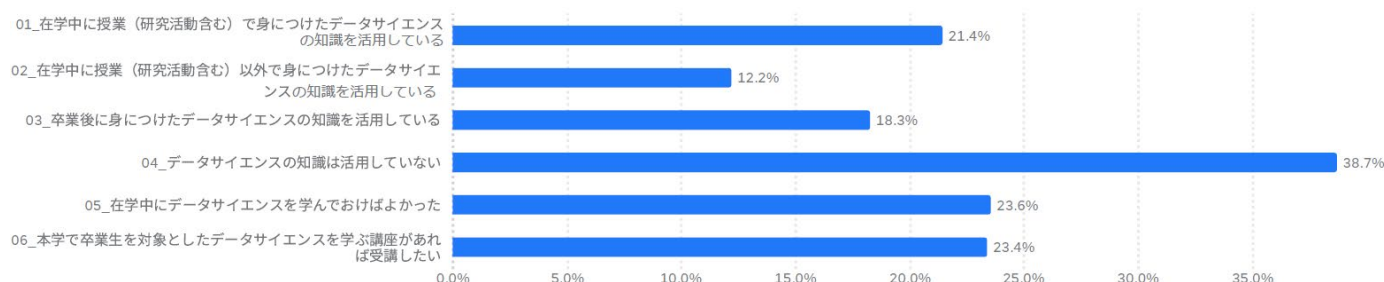
就職活動

修士1年から始まる就職活動

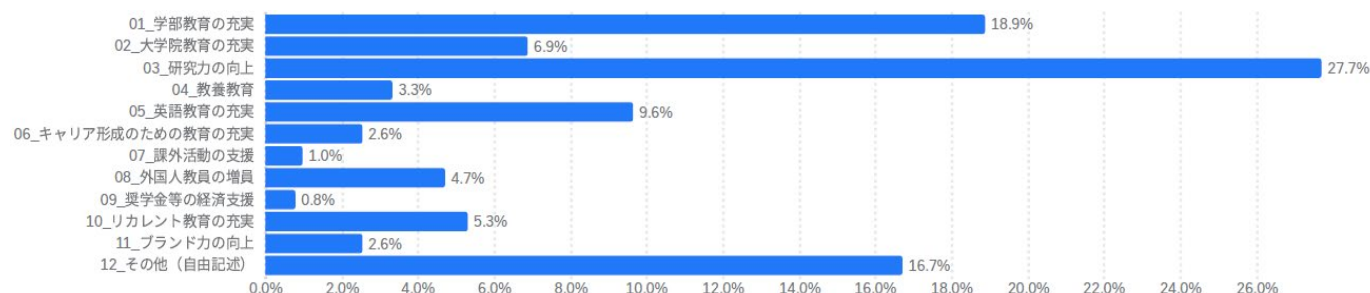
Q12 進路決定（進学、就職等）の際に、データサイエンスの知識が活かされたかについて、あてはまるものをすべて選んでください。（複数選択可）



Q13 業務や学業におけるデータサイエンスの知識を活用する機会等について、あてはまるものをすべて選んでください。（複数選択可）



Q14-1 今後本学は何に力を入れるべきと思われますか。優先順位第1位～3位を1つずつ選び、第1位については理由をご記入ください。【優先順位 第1位】



Q14-1_14_TEXT - 12_その他（自由記述）

※抜粋

12_その他（自由記述） - テキスト

施設の充実

大手企業との協働研究

リカレント教育にも被るが、二部があるという強みを生かし、理学の専門教育や社会人の理科教員養成など、ダブルスクールやサブスクールを前提としたカリキュラムの構築

学部の授業として、グループに分かれて実際にものを作ってみる授業をやったほうがいいと思います。

Q14-2 Q14-1 で優先順位第1位に選んだ内容について理由をご記入ください。※抜粋

○「03_研究力の向上」を選択した理由

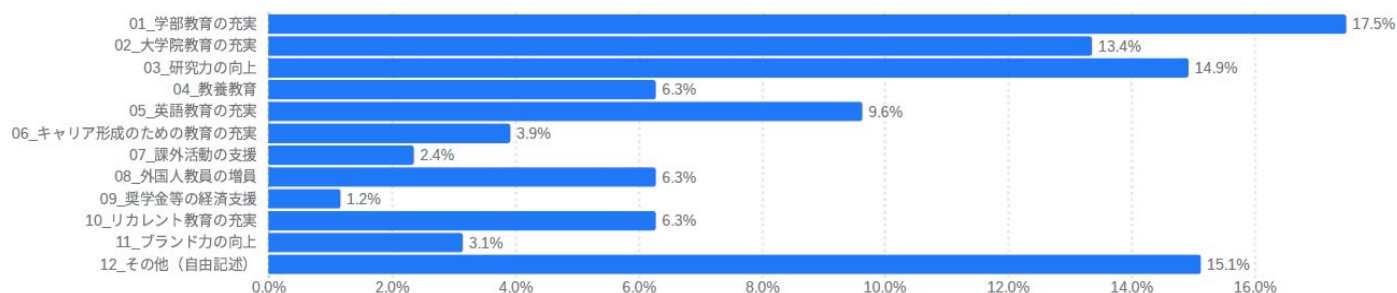
- ・学べること、習得できることがとても多いと思うから。研究を通じて、経営学に関する専門的知識だけでなく、プレゼン能力や論理能力など、身につけられたと思う。データサイエンスや英語に関するスキルを身につける必要性も痛感した。
- ・理系大学としてのプライド、競争力を持って、社会貢献して欲しい。
- ・インプットが優秀で十分なのにアウトプットが苦手な学生が多かった印象。
- ・大学は深い分野を研究するところだと思っている為。
- ・自ら課題を発見し、それを解決する能力が身につくと思うから。
- ・理系大学として研究力は最も大切だと考えるから。
- ・強みの研究力がさらに強化されたらうれしいから
- ・理科大の長所として売り出しているからにはもっと注力すべきと考える。現在では、研究資金の額などが各研究室に依存しており、研究の質に差が出ていると感じる。学生が資金不足等の不自由を感じることなく研究に没頭できるような環境を整えて欲しい。

○「01_学部教育の充実」を選択した理由

- ・研究室に配属された際、学部時に習っていない知識の習得を求められることが多かった。その知識を学部時から教えてもらえると良かったと思うため。
- ・論文を読むうえで必要な知識は英語力ではなく、物事の問題や原理等を理解しているかであるため
- ・基礎知識が足りないと感じたから
- ・留年する学生が他大学と比べてもまだ多いように感じる。授業以外でのサポート体制を充実させると良いと感じる。
- ・自立した研究を行うために、教員から単に課題を与えられるような教育ではなく、自ら問題提起を行える環境をより多く設けるべきだったと考えるため。
- ・学生にとって、大学の最も本質的な価値であり、進学するにも就職するにも学部の基礎的な知識は役に立つから。

Q14-3 今後本学は何に力を入れるべきと思われますか。優先順位の高い順に3つ選んでください。

【優先順位 第2位】



Q14-3_x14_TEXT - 12_その他（自由記述）

※抜粋

12_その他（自由記述） - テキスト

これからは英語が求められる時代である

2部の学生の視点でいうと研究分野に進むより在学中に専門的な教養を身に付けたいと感じたため、キャリアプランの見直しやリスニングなどの話をもっと聞きたかった

異文化交流を身近に感じるように各学科ごとの文化、独自性を大切にしてほしい。

自発的に取り組めるカリキュラムをのぞむ

教員の研究エフォート向上

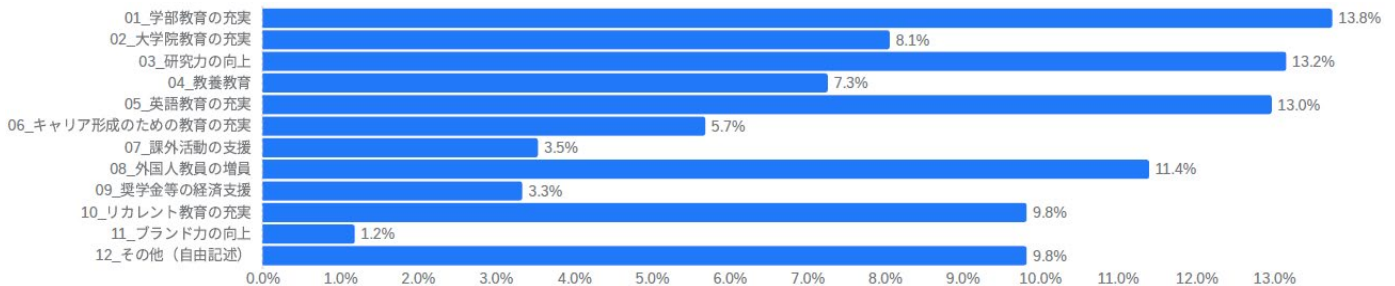
社会人ドクター受入の環境整備

外国人研究者の少なさを感じた

機器センターにある機器使用のための研修の通年化

Q14-4 今後本学は何に力を入れるべきと思われますか。優先順位の高い順に3つ選んでください。

【優先順位 第3位】



Q14-4_xx14_TEXT - 12_その他（自由記述）

※抜粋

12_その他（自由記述） - テキスト

研究に関わるシステムの制度化、利便性向上

入試制度改革。数学は早稲田と同様120分にして、しっかり学力検査を。

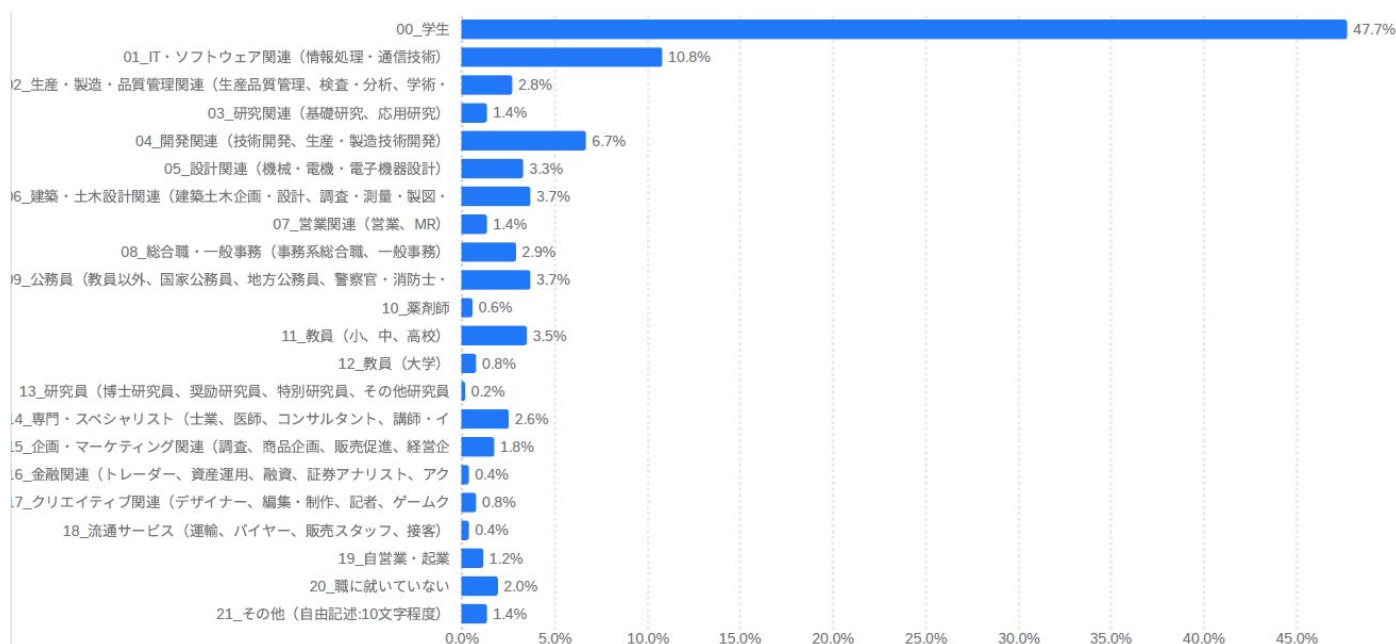
教員を忙しくしすぎない

学生課の対応について、教員との間で連携が取れていないことやルールに無駄が多いことなどが叫ばれ続けています。LETUSやCLASSなどについても使いやすくなるといいですね。そろそろ改善をお願いします。

Q15 現在の勤務先での職種を選んでください。

※大学院（修士・博士）在学中の方は「00_学生」を選択してください。

※複数の勤務先がある場合は、もっとも長い時間を費やしているところとしてください。

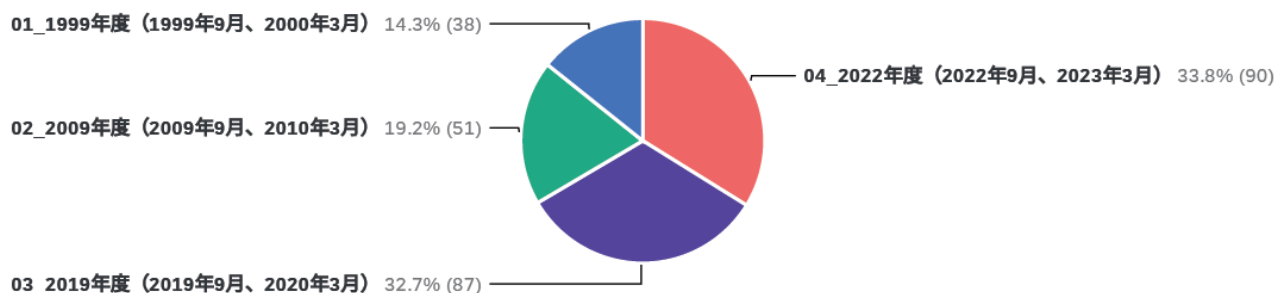


Q16 東京理科大学は、2031年に創立150周年を迎えます。この節目を迎えるにあたり東京理科大学のこれまでの歩みと、皆さまとともに紡ぎだす周年事業について、発信していきたいと考えています。そこで、150周年事業でやって欲しいこと・アイデアがございましたら、ご記入ください。※抜粋

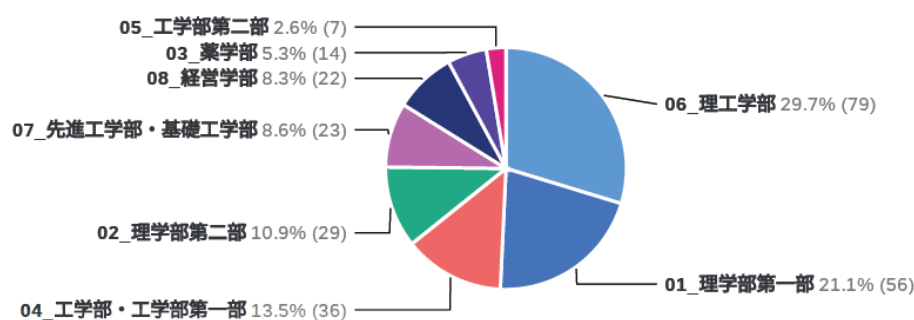
- ・ 学生の方の研究成果を発表する。また、東京理科大学出身で、社会・大学院で活躍されている方を招いて1人ずつ講演や学生時代にやっておいたら役に立つことを聞くのも良いのではないかな。
- ・ 理科大の持つ資産（教育力、蔵書、オンライン講義）をさらに地域に共有する
- ・ 学生ベンチャー向けの講演会
- ・ データサイエンス、AI時代に対応する高度な人材の養成を行う新学部を神楽坂に新設する。
- ・ 理大祭で盛大にアピールするとよいのでは
- ・ 高校生、大学学部生向けの研究体験のようなものの設立に向けた事業
より積極的に企業や官庁と連携をとり、学生研究の段階から具体的なイメージを持たせるような取組
- ・ 各学部、学科、研究室などの単位ごとに、目指すべき姿を掲げてそれを達成するための記念プロジェクトとして予算編成などがあると面白い。物への投資ではなく、人や成果への投資が好ましいと感じた。
- ・ 全キャンパス合同で分野横断的なシンポジウムなどがあると面白い。
- ・ ダブルディグリーや飛び入学などの積極的な導入
- ・ 卒業生同士の交流増加の観点から、何かそれに関連するイベント
- ・ YouTube等で、サイエンスを若者に普及するような取り組み
- 現役の先生方やご退官された先生方が何を考えて、どのような信念を持って研究されていた・教育されていたのかインタビューして欲しい
- ・ 今理科大が取り組んでいる最先端の研究や今後の理科大の展望や野望などの夢のある話を我々卒業生に向けてオンラインで記念公演などをしていただきたい

アンケート集計結果(大学院(修士・博士)在学中を除く)

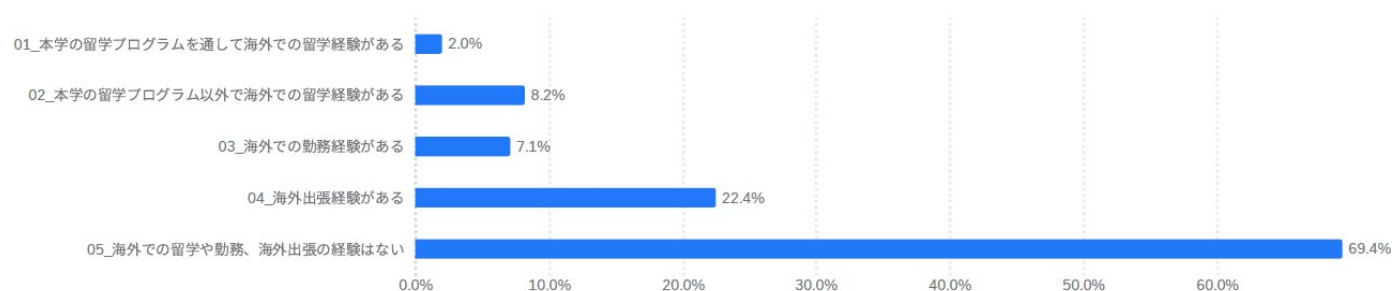
Q1 卒業した年度を選んでください。



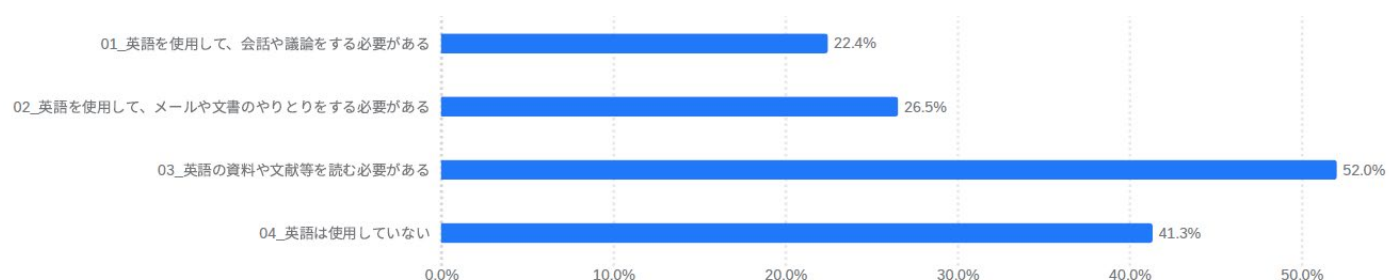
Q2 卒業した学部を選んでください。



Q3 海外での留学や勤務の経験、海外出張について、あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



Q4 業務や学業における英語の使用について、あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



Q5 英語のコミュニケーションについて、「01_学部在学中に身についたと感じるコミュニケーションレベル」及び「02_現在身につけておきたかったと感じるコミュニケーションレベル」を下表からそれぞれ選んでください。

※各選択肢の具体的な到達レベルは下表をご覧ください。

各資格・検定試験とCEFRとの対照表

文部科学省（平成30年3月）

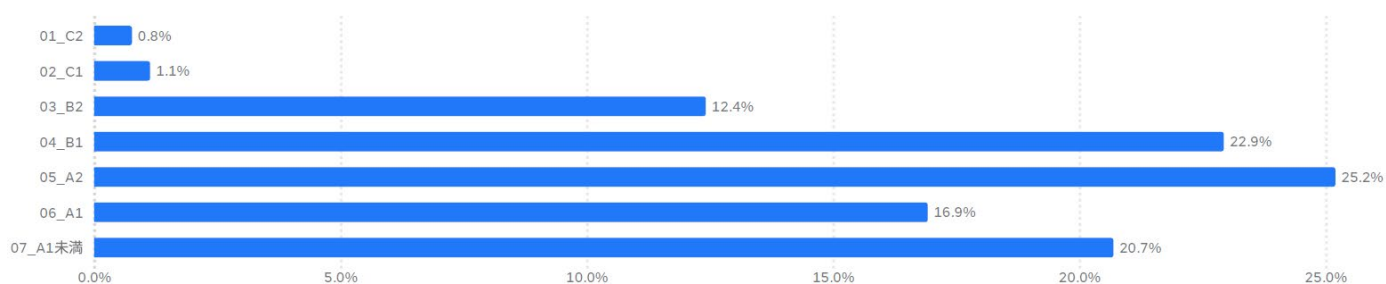
CEFR	ケンブリッジ 英語検定	実用英語技能検定 1級-3級	GTEC Advanced Basic Core CBT	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W
C2	230 200 (210) (230) C2 Proficiency			9.0 8.5				
C1	199 180 (190) (180) C1 Advanced	3299 2600 (3299) 2630 1級	1400 1350 (1400)	8.0 7.0	400 375	800	120 95	1990 1845
B2	179 160 (170) (160) C1 Advanced B2 First / for Schools	2599 2300 (2599) 2304 準1級 (2304)	1349 1190 (1280)	6.5 5.5	374 309	795 600	94 72	1840 1560
B1	159 140 (150) (140) B1 Preliminary / for Schools	2299 1950 (2299) 1980 2級 (1980)	1189 960 (1080)	5.0 4.0	308 225	595 420	71 42	1555 1150
A2	139 120 (120) (120) A2 Key / for Schools	1949 1700 (1949) 1728 準2級 (1728)	959 690 (840)		224 135	415 235		1145 625
A1	119 100 (100) (100) 各試験CEFR 算出範囲	1699 1400 (1699) 1456 3級 (1400)	689 270 (270) Core Basic Advanced CBT					620 320

は各級合格スコア

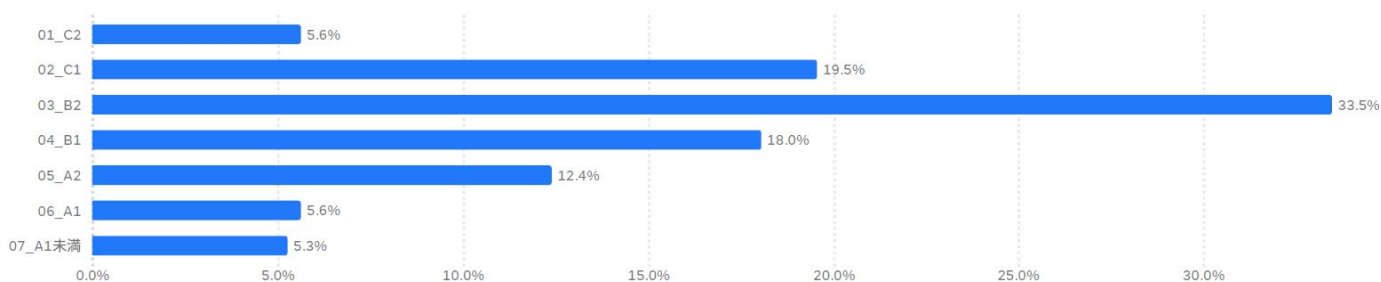
※括弧内の数値は、各試験におけるCEFRとの対象関係として測定できる能力の範囲の上限と下限

※ TOEIC L&R/ TOEIC S&Wについては、TOEIC S&Wのスコアを2.5倍にして合算したスコアで判定する。

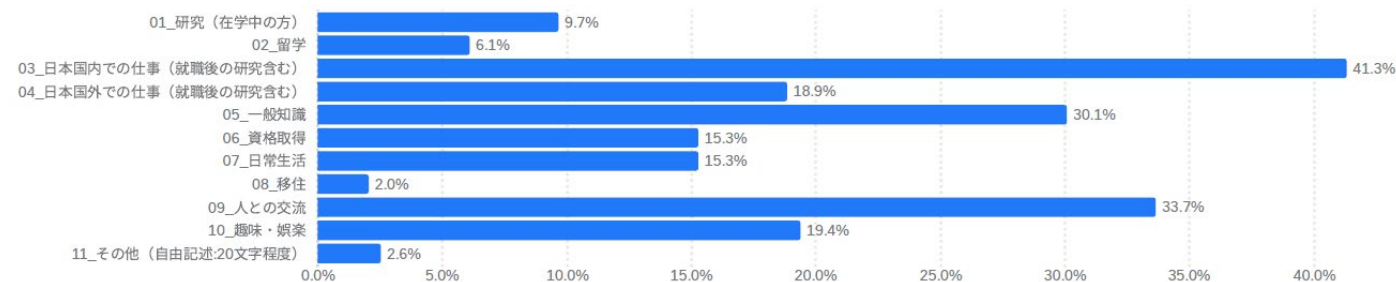
Q5-1_大学在学中に身についたと感じる英語のコミュニケーションレベル



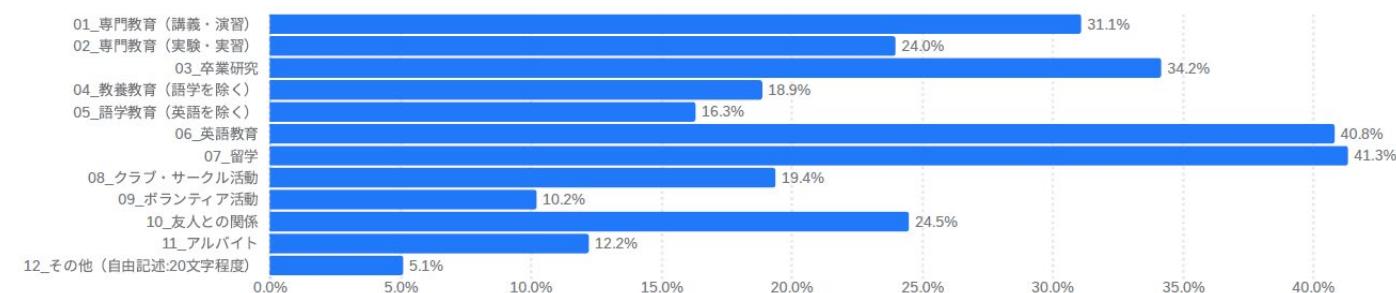
Q5-2_現在身につけておきたかったと感じる英語のコミュニケーションレベル



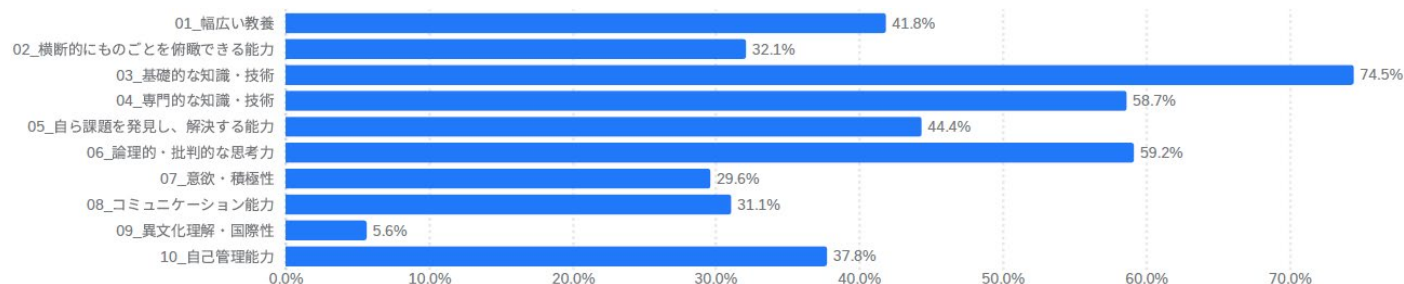
Q6 Q5 で選択した「現在身につけておきたかったと感じるコミュニケーションレベル」について、どの場面でそのレベルを身につけておきたかったと感じましたか。（複数選択可）



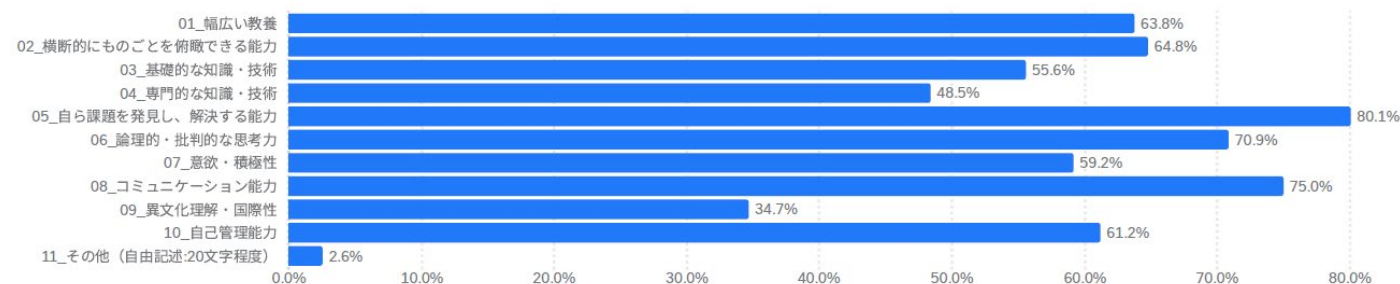
Q7 学部在学中の学びや経験で、異文化理解、国際的な視野を持って活躍できる能力を身につけるために有効だと感じる取り組みをすべて選んでください。（複数回答可）



Q8 本学は卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）において、身につけるべき知識・能力等を制定しています。以下のうちから、学部在学中に身についたと感じる能力をすべて選んでください。（複数回答可）

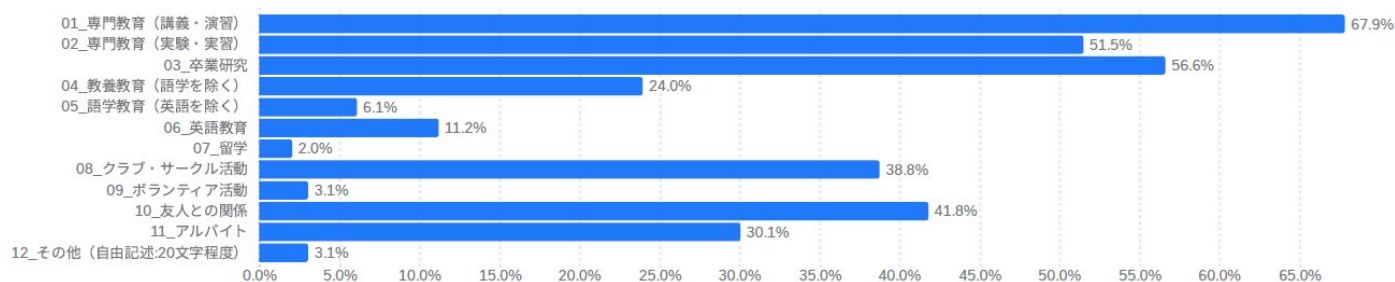


Q9 学部卒業後の生活において必要だと考える知識や能力をすべて選んでください。（複数回答可）

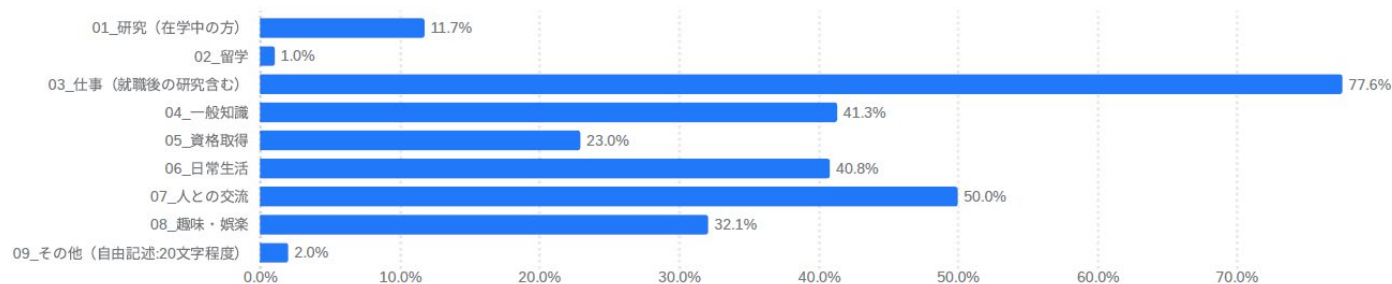


Q10 学部在学中の学びや経験で、学部卒業後の生活に役立ったと感じることをすべて選んでください。

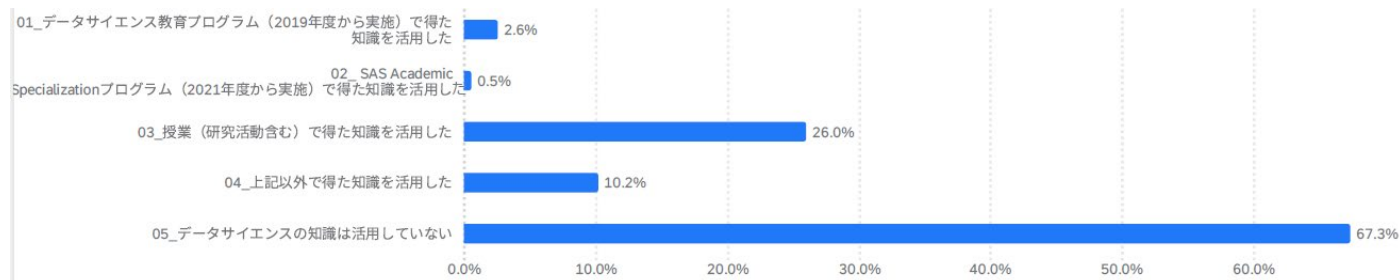
(複数回答可)



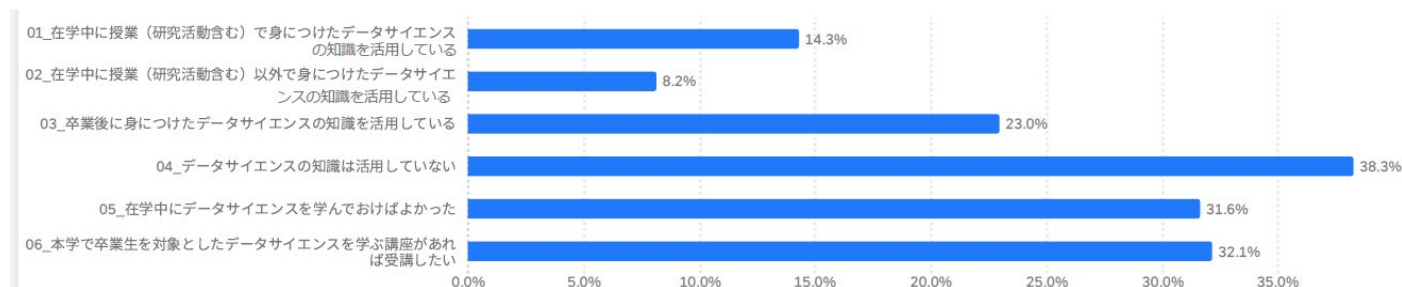
Q11 Q10 で選択した「卒業後の生活に役立ったと感じること」について、どのような場面で役立ちましたか。(複数選択可)



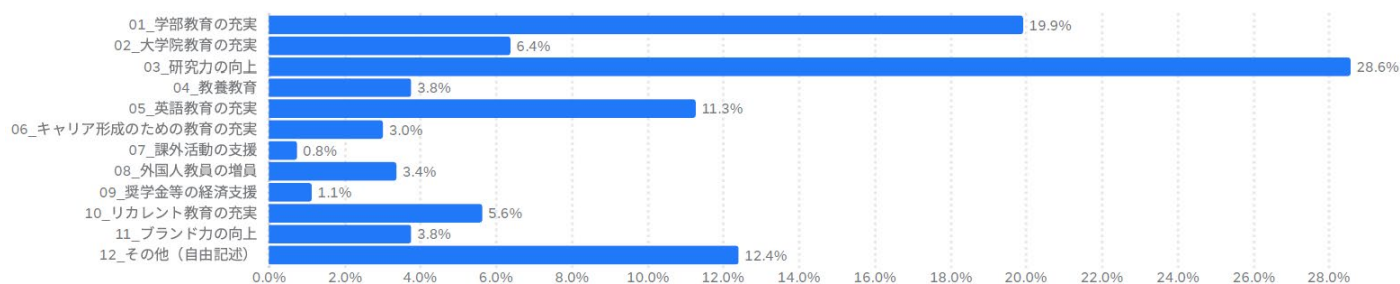
Q12 進路決定 (進学、就職等) の際に、データサイエンスの知識が活かされたかについて、あてはまるものをすべて選んでください。(複数選択可)



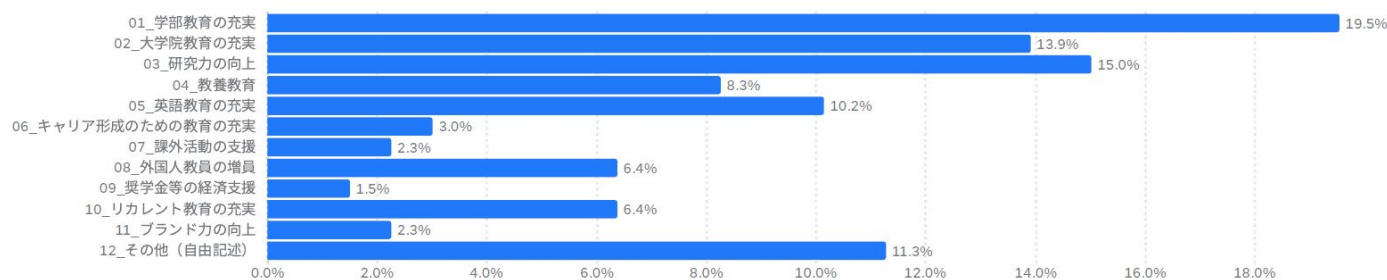
Q13 業務や学業におけるデータサイエンスの知識を活用する機会等について、あてはまるものをすべて選んでください。(複数選択可)



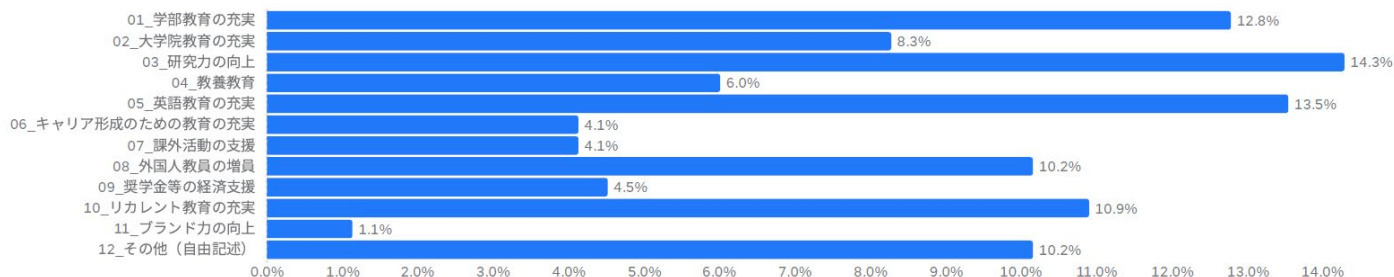
Q14-1 今後本学は何に力を入れるべきと思われますか。優先順位の高い順に3つ選び、第1位については理由をご記入ください。【優先順位 第1位】



Q14-3 今後本学は何に力を入れるべきと思われますか。優先順位の高い順に3つ選んでください。【優先順位 第2位】



Q14-4 今後本学は何に力を入れるべきと思われますか。優先順位の高い順に3つ選んでください。【優先順位 第3位】



Q15 現在の勤務先での職種を選んでください。

※大学院（修士・博士）在学中の方は「00_学生」を選択してください。

※複数の勤務先がある場合は、もっとも長い時間を費やしているところとしてください。

